

各部会等からの報告について

②医療的ケア課題検討部会

1. 開催状況

日時：令和5年1月30日（月）15：00－17：00

場所：ZOOMによるオンライン開催

2. 出席委員

三重県重症ケア家族会 SMILE

市立四日市病院

三重大学医学部付属病院小児・AYA がんトータルケアセンター

特定非営利活動法人クローバー クローバーの家

社会福祉法人聖マッセヤ会障害者支援施設 聖マッセヤ心豊苑

松阪市企画振興部嬉野振興局 地域住民課

訪問看護ステーションほたるいせ

三重県立城山特別支援学校

特定非営利活動法人なちゅらん なちゅらん四日市

済生会明和病院なでしこ

※2名欠席

奥山 絵里 氏

岡 香織 氏

岩本 彰太郎 氏

真弓 はるみ 氏

村田 達也 氏

下岡 文代 氏

岡田 まり 氏

小倉 泉 氏

西脇 滋徳 氏

青木 哲也 氏

3. 内容

(1) 三重県医療的ケア児・者相談支援センター等事業について

(主な意見等)

- ・本部と支部で、市町など関係機関とも連携し、家族等の支援を行っている。
- ・当支部では、相談件数が前年度と同程度である。センターが知られておらず相談されていないケースもあるかもしれない、周知に課題を感じている。
- ・愛知県の方から、県のホームページをみて相談された事例があり、センターがあることで相談の窓口になっていると感じた。
- ・相談支援センターの支部として、市町の会議などに呼んでいただくことも増え、そこでセンターやスーパーバイズチームを紹介し、医療的ケア児・者の支援について啓発する機会にもつながっている。
- ・地域の中でのつながりも出来てきていると実感しており、多様な関係者と連携し、より身近なところで中核的な機能の一つになればと感じている。
- ・医療的ケア児の保護者へアンケートしたところ、5割が断続的な睡眠、3割は5時間未満の睡眠であった。また、就労の継続を断念した方が3割、就労を継続できている方も3割であった。相談先は病院のソーシャルワーカーが多くなっており、相談支援専門員に相談が向くようになればと感じている。
- ・相談できる人がいる一方で、アンケートで答えても声をあげられない人もいる。そこへのアプローチをどうすると良いか。
- ・外に行く、アウトリーチができていないことが課題と認識しており、市町の保健師と連携し、保護

者のニーズなどを把握できれば。

- ・相談支援専門員もスキルがアップしてきており、母親によりそえる相談員も増えていると思うが、相談員も業務が忙しく、時間を費やせない現状もある。
- ・相談員に限らず、誰かとつながっていれば、支援につなげることができると思う。
- ・センターについては、周知をしつつ、成熟を図っていくことが課題と共有できた。

(2) 医療的ケア児・者コーディネーター養成研修事業について

(主な意見等)

- ・ご家族の方で研修をしていることやコーディネーターがいることを知らない方もみえると思う。
- ・研修の日程が5日間と長く、受講が難しい面もある。
- ・いい取組をしていると思うので、利用者に知ってもらえるよう情報の出し方に工夫ができれば
- ・役に立つ研修と思うので、修了者が増えていくといいなと思っている。
- ・研修は、学ぶ機会となり、学びがスキルにつながっていると聞いている。
- ・フォローアップ研修の希望として、災害が一番多かったことに驚いたが、災害のことは相談支援の方もやらなければという機運はあるが、進んでおらず、フォローが必要な状況と感じている。
- ・コーディネーターの養成研修については、地域の格差、フォローアップ研修をやっていくこと、家族への周知などが課題と共有できた。

(3) その他

(主な意見等)

- ・保護者へ困りごとや悩み事をアンケートしたところ、多い順に、親の就労、福祉用具等、きょうだい、災害時の準備であった。
- ・退院時や在宅移行期は、誰に相談していいかわからず、一番大変な時期と感じている。
- ・一番大変な時期をサポートするため、ピアサポート交流会を家族会として進めていきたいと考えており、協力をいただければ。
- ・地域で短期入所が不足していると感じており、ニーズ調査など、地域でショート不足の解決につながる取組ができないかと考えている。
- ・病院に預けることについて不安のある親もみえ、家で見ている方も多い。
- ・短期入所について、医療的ケアのあるなしにかかわらずニーズは高く、資源不足も感じている。
- ・当事者しかわからないことがある。
- ・ピアサポートとレスパイトのあり方の課題については、部会としても検討しながら、来年度、こんな風に変わってきているとなればいいなと思った。

以上

三重県医療的ケア児・者相談支援センター等事業

(4つの地域ネットワーク)

①三重県医療的ケア児・者相談支援センター 本部

指定機関：三重大学医学部附属病院 小児・AYAがんトータルケアセンター

役割：家族等への相談・情報提供・助言、地域ネットワーク（支部）への側面的支援
県内の医療的ケア児・者やその家族のニーズの地域への共有
障害福祉サービス等事業者・保育所等・学校等の看護師等への研修

②三重県医療的ケア児・者相談支援センター 支部

指定機関

- ・そういん支部：障がい者総合相談支援センターそういん
- ・四日市圏域支部：なちゅらん四日市（レーヴ）
- ・にじいろ支部：三重病院
- ・はれる和支部：明和病院なでしこ

役割：スーパーバイズ機能（※）、事例検討や地域密着の各種研修（研究会）

③三重県医療的ケア児・者及び重症心身障がい児・者相談支援センター

※旧重症心身障がい児（者）相談支援事業をリニューアル

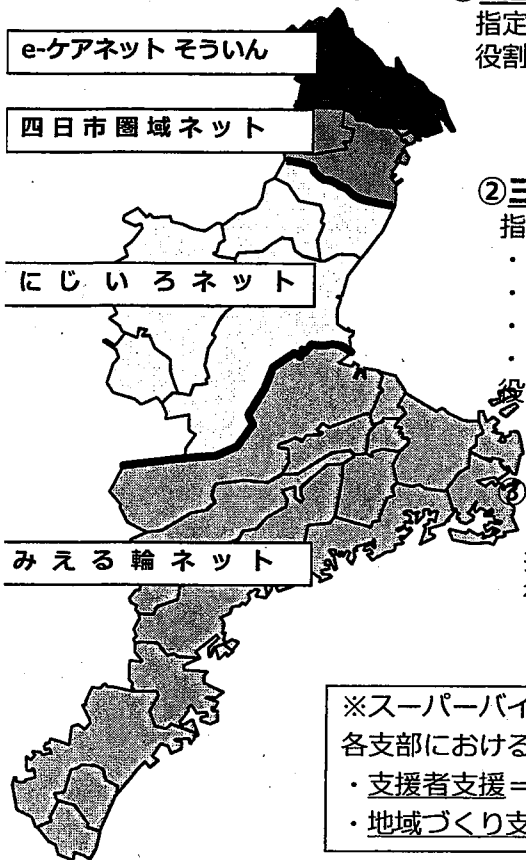
指定機関：県内5箇所

役割：在宅の重症心身障がい児・者とその家族の生活を支援するため、相談に応ずるとともに、療養機関等福祉サービスの提供を行う

※スーパーバイズ機能

各支部における多職種チームによる支援者へのスーパーバイズ

- ・支援者支援＝アドバイス機能（支援者に対する助言）
- ・地域づくり支援＝コンサルテーション機能（社会資源の開発等の助言）



三重県医療的ケア児・者相談支援センター等事業

<主な活動状況>

(1) 相談支援件数（4月～）

- ・医療的ケアを必要とするご本人や家族、支援者等からの相談支援

【本部】 88件（うち支援者からの相談 41件）

【支部】 956件（うち支援者からの相談 201件）

(2) 医療的ケア児・者の地域ネットワークにおけるスーパーバイズ機能推進研修会

- ・新任スーパーバイズチームメンバーを対象にスーパーバイズ事業の概要等（第1部）
- ・地域ネットワークごとの事例検討（第2部）

【日時】 令和4年5月15日 【参加者】 35名（第1部）、64名（第2部）

(3) 医療的ケア児・者相談支援センター開設記念講演会

【日時】 令和4年6月11日 【参加者】 約200名

(4) 医療的ケア スタートアップ・技術スキルアップ研修会（7月～）

- ・障害福祉サービス等事業所を出張訪問し、看護師等を対象に医療的ケアの技術指導等を実施
- 【参加事業所】 9事業所（58名）

(5) その他

- ・医療的ケア児・者が利用できる地域社会資源マップ検索サイト（社会資源MAPの見える化）

○医療的ケア児・者に係る関連分野の支援を調整する医療的ケア児等コーディネーター（相談支援専門員、訪問看護師等）を養成する。

○平成30年度報酬改定により、研修の修了が相談支援事業所の「要医療児者支援体制加算」の要件になった。

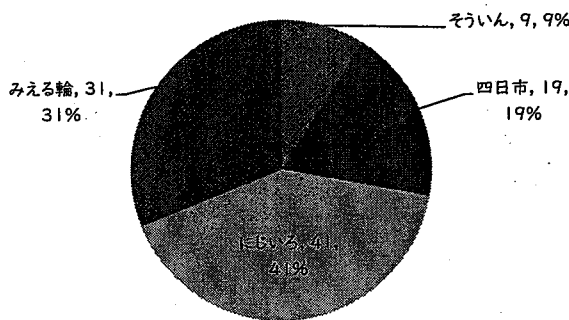
- ・平成30年度以降、三重病院に事業を委託し、研修を実施
- ・令和4年度は5日間の日程で開催（年1回の開催）
- ・令和4年までの修了者は174名
- ・今年度、令和3年度までの修了者を対象に調査を実施 →結果は別紙のとおり
- ・新たに、修了者を対象としたフォローアップ研修を令和5年度に実施予定

3

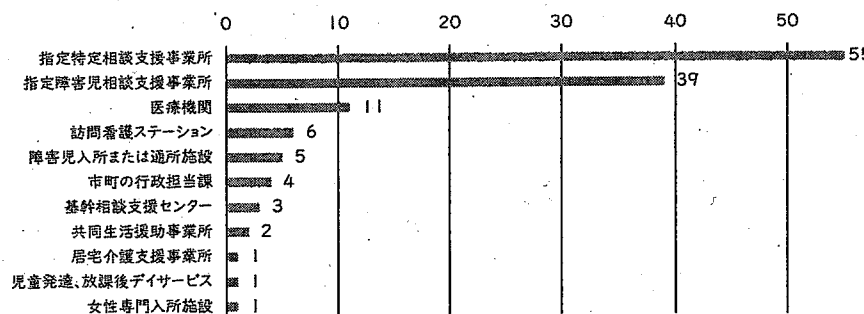
アンケート調査結果の概要

(n=100)

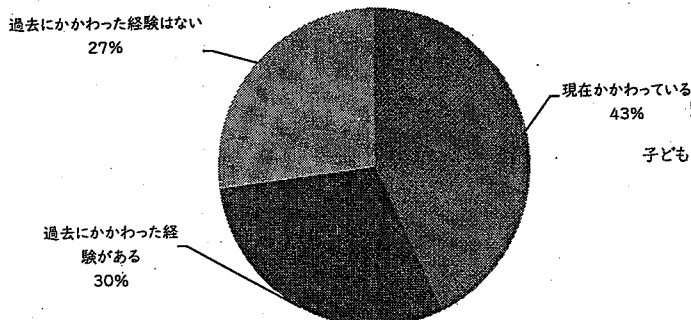
所属している機関がある地域



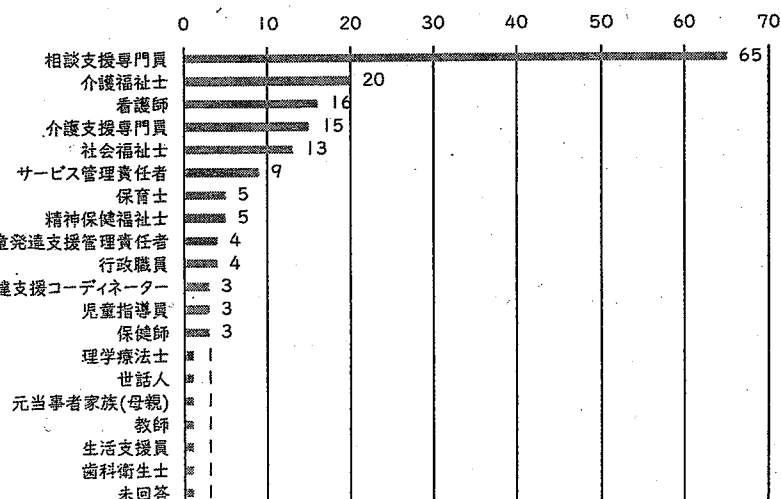
所属している機関(重複あり)



医療的ケア児・者とのかかわり

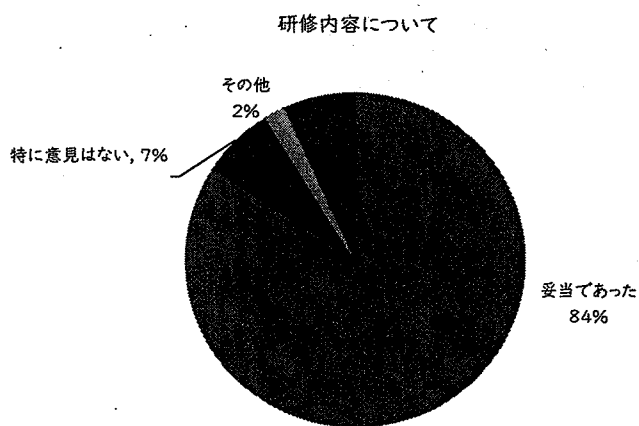
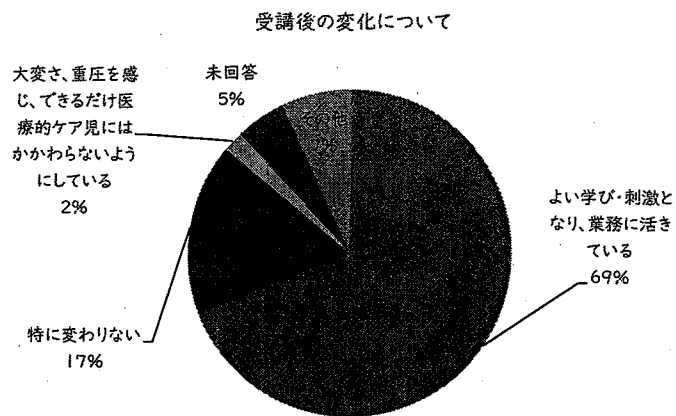
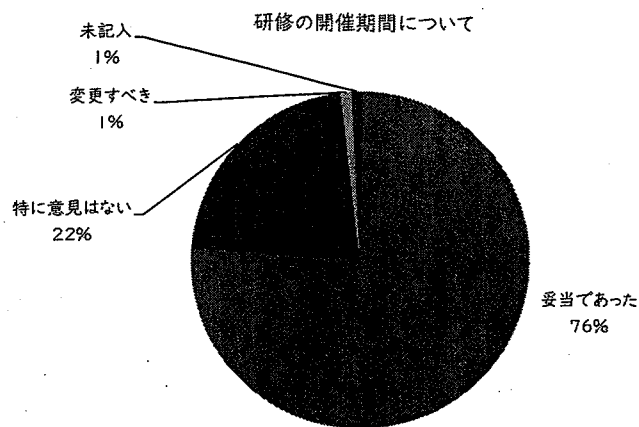


職種(重複あり)



アンケート調査結果の概要

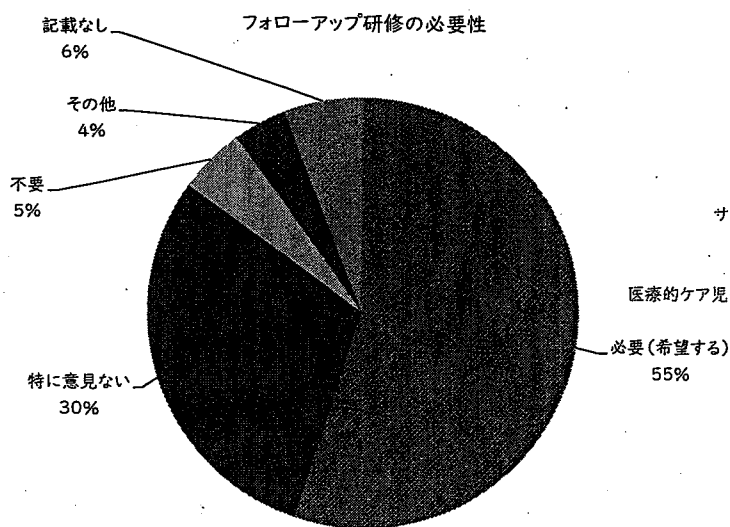
(n=100)



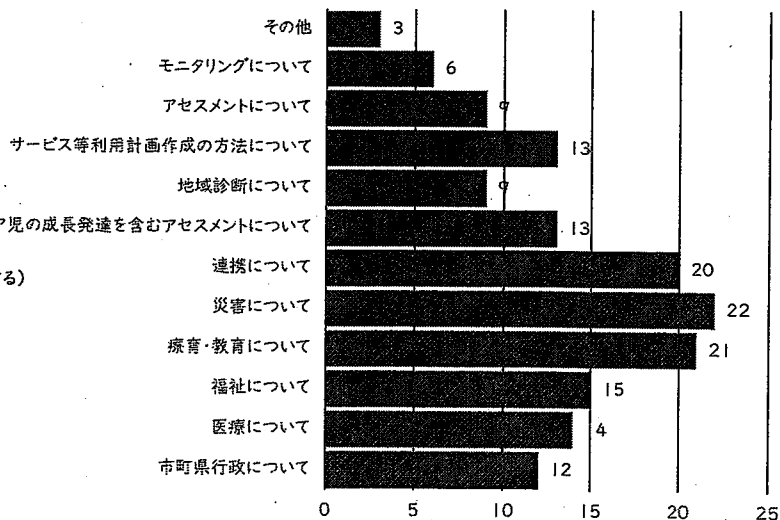
5

アンケート調査結果の概要

(n=100)



フォローアップ研修の内容別要望数(重複あり)



→ 令和5年度にフォローアップ研修実施に向けて検討

6

